

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第98号 (R元.9.20)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄

はじめに 9月下旬となり、朝には秋の気配を感じるようになってきましたね。千葉県はじめ関東では、台風15号の大きな被害により多くの地域で停電が続いているとの報道に胸が痛みます。電力会社の方々も一生懸命復旧に当たっていることでしょう。一日も早い復旧を願うばかりです。

さて、この8月9月、県内外での山元先生の講演はじめ、様々なイベントがありました。より多くの方々に私たちの活動をお伝えできればと考えています。

今回のORMZニュースでは、それら会の活動報告や巡回診療への同行報告などをお伝えします。

山元先生は今月30日にはザンビアに戻られる予定です。今後とも皆様のご支援のほどよろしくお願いします。



会の活動報告

- ・講演会として、8月22日宮崎西高校付属中学校、9月11日JPタワー名古屋（防災セミナーの招待講演）、19日宮崎大宮高校、26日宮崎西高校（予定）でORMZの活動に関する講演を山元香代子先生が行いました。（写真は19日の大宮高校講演後にボランティア部が生徒さん達等から集めた寄附金を受取る様子）
- ・8月28日、宮崎銀行佐土原支店にて株式会社シミズ代表取締役清水貴浩様から、CSR型私募債による寄附の贈呈を受けました。
- ・9月6日、私の母校の宮崎大宮高校国際ボランティア部が文化祭に、ORMZの活動に関する展示を行ってくれました。
- ・9月17日、公益社団法人社会貢献支援財団の社会貢献者表彰に資料を作成し応募しました。



現地活動報告（ザンビアより芦田様から）

◎8月21日リテタ巡回診療

同行者：ムレタさん、チブリカさん、ボストンさん、メアリーさん、ニヨニさん、ダニエル（ライノ）、ギルバート（レンタカー）、訪問者：川原さん（ロシナンテス）

CHW：5人：エリアスさん、マチラさん、コンスタンスさん、コスタさん、ミルナーさん

患者数：110人 マラリア検査数110人うち陽性35人、

主な症状：下痢、腰痛、頭痛等 重篤なケース：無し

*蚊帳販売：0個（残り102個） マラリア陽性が増えていることに関し、ダニエルによると、住民は蚊帳を保有して無いのでマラリアのリスクは認識しているが、蚊帳を買うお金が無いため、無料で配布される機会を待っていると話している人が結構いたそうです。

*道路状況：センターからシェレニまでは未整備だが、サンダラからリテタまでの間の最も厄介なストリームの個所については、住民が22日に整備する予定（カウンシラーの依頼を受け政府が緊急食糧支援としてリテタにメイズをトラックで運ぶ予定もあるため）



この日は A,B,C と別れて設営、D で食事を
今回の写真はすべてロシナンテ様の写真です

◎8月28日ニヤンカンガ巡回診療

同行者： ムレタさん、チブリカさん、ボストンさん、ニヨニさん、ダニエル（ライノ）、

訪問者（ロシナンテス 日本人2名、ザンビア人2名）

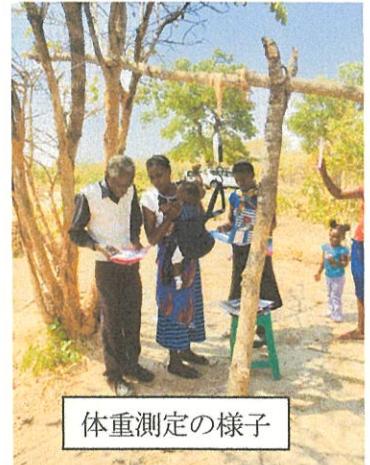
CHW： 3人：リタさん、エバリンさん、マチルダさん

患者数： 49人 マラリア検査数 49人うち陽性0人、

主な症状：下痢、腰痛、腹痛等 重篤なケース： 無し

*蚊帳販売： 0個（残り102個）

*道路状況： 前回と変わりなし。



体重測定の様子

◎9月4日サンダラ巡回診療

同行者： ムレタさん、チブリカさん、ボストンさん、メアリーさん、

ニヨニさん、ギルバート（レンタカー）、ダニエル（ライノ）

CHW：6人：マチラさん、マーチンさん、コンスタンスさん、

ミルナーさん、クリスタベルさん、フィリスさん

患者数： 37人 マラリア検査数 37人うち陽性3人、

主な症状： 頭痛、腰痛等

重篤なケース： 1名（男性30代）木の枝を踏んで枝が中に残ってしまっておりレビー病院へリファー

*蚊帳販売： 17個（残り85個）

*道路状況： サパニからマンゴーツリーまでは未整備のまま。

チーフリテナ（チャムカに次ぐポジションの方）とチペンビで会った際に話をしたら、彼も気にしているとのこと。彼の指示で、来週水曜に地域の村長会議をして、役割を話し合うことに。



診察の様子

◎9月11日ルアノ巡回診療

同行者： ムレタさん、チブリカさん、ボストンさん、メアリーさん、プリスカさん、ギルバート（ライノ）

CHW：5人：マーチンさん、マチラさん、マンボさん、

リネットさん、クリストファーさん

患者数： 84人 マラリア検査数 84人うち陽性3人、

主な症状： 下痢等＝下痢が多いことについて、マチラさんによると、多くの人が井戸を使わずに近所の川などの水を使っているそうです。まずは啓発を行ってみるそうです。

重篤なケース： 少年5歳くらいが、ヒザを強打し、ひどい痛みがあるため、チペンビ HC ヘリファー（→チペンビでは対応できないとのことでリテタへ再度リファー）

*ちなみに、先月父親に棒でぶたれた少年は、走り回れるくらい回復しているそうです。父親は未だに行方不明で、現在は、叔父と住んでいるとのこと。



予防接種の様子

*蚊帳販売：5個（残り80個）

*道路状況：変わりなし。サバニからマンゴーツリーまでは未整備のまま（シェレニとマプランガが整備をしていない）。今週の村長会議には、マプランガの村長は参加したが、代理が多くて話はまとまらず、来週月曜日に再度集まることになったそうです。DCも問題を認識していて、グレーダーを借りるめどはついているが、ガソリン代を負担する必要があるそうです。来週の会議は、グレーダーを使うために村人から現金を集めか、もしくは自分たちの手で道路の整備をするかという議論が主になりそう。

現地活動見学 <医学生さんから巡回診療同行の感想と山元先生からの返信>

8月19日に巡回診療に同行したもう一人の学生さん（秋田大学医学部）の感想です。彼はクラウドファンディングで集めた資金でヘルスポストを建設するために、1年休学してザンビアに滞在中です。

山元先生、大変お世話になっております。

私自身、今回は4回目のザンビアです。僻地の生活事情にはそれなりに詳しいつもりでいました。しかし、ORMZが巡回診療を行うルアノ地区の現状は、医療・教育・交通・農業・水衛生、いずれの側面から見ても非常に厳しかったです。

山元先生はなぜ身を粉にして首都から5時間の悪路を突き進むのか。この問い合わせへの考えを巡らせるために、私は巡回診療に同行しました。

考るまでもなく、明確な答えがありました。そこには、「基本的な社会インフラから取り残された人たちがいるから」です。非常にシンプルながらも現実を見ないと実感がわかないことでした。

ルアノ地区のサンダラに行く道中。膝の外側が5センチメートル大でえぐれ、皮下組織がはっきりと見える状態の少女がいました。6歳の彼女は、木登りして遊んでいるときに落下しました。鋭利なものが刺さりえぐれてしまったのです。

奇妙なことに患部が黒い焦げのようなもので覆われていました。この土地にある伝統的な施術が行われた跡でした。母親が植物を燃やし、その焼け跡を患部に塗ったようです。流水で洗われることもなく、破傷風や他の感染症が疑われる状態でした。不安そうに私たちを見つめる彼女の瞳が忘れられません。クリニカルオフィサーは、患部を洗い、焦げを取り除き、抗菌薬を処方しました。この事故は昨日起きたものでした。不幸中の幸いでした。巡回診療が終わってから、彼女と母親は車の荷台に乗せられ、病院に運ばされました。

金銭的な理由から病院に行かない人も大勢います。患者の一人に左目の視力が失われた男性がいました。まだ30代です。彼は、炭の生産に従事していました。その熱と煙によって視力を失ったのです。6年前からこの職に就き、2年ほど前から視力が悪化。巡回診療の際に何度も医療機関にかかるように言われるもの、金銭的な理由から受診を拒み続けました。気づいたら視力がなくなりました。

たった1000円。たった1000円で守れる命がある。守れる幸せがある。この不条理に目をつむりたくなります。

ルアノ地区で診察していると驚くことがあります。お母さんたちの年齢が非常に若いのです。15歳で第一子を生んだお母さん。18歳で2人目を妊娠していました。彼女たちはみな英語が話せません。なぜなら、ルアノ地区には小学校までしかないからです。それも、政府管轄ではなくコミュニティースクールです。村出身のボランティアが先生を務めます。校舎に屋根はなく、青空教室でした。雨季は毎日雨が降るため、大変です。12年間の義務教育のうち、ルアノの小学校は7年生までしか教えられません。8年生からは30キロ近く離れたチペンビに行く必要があります。家計状況を考えると8年生に進学できる人は本当に一握りです。ルアノに残った子たちは何をするか。結婚して子育てして農作業にあたるしかありません。

幸せの在り方は人それぞれです。義務教育12年間を終えたからと言って幸せになれるわけではありません。土地が豊富にあり農作業や牧畜で生計を立てているルアノ地区の現状を見れば、早く結婚し子供に恵まれながら畠仕事に精を出すのが幸せなのかもしれません。ここにはインターネットが通っていません。丘の上の上に行かないとい電波が入らない状態です。そのため、世界との繋がりはほとんどなく、村の人たちの価値観も古くからの文化に根付いていると思われます。

でもだからといって、何もしなくてよい、というわけではありません。人々の価値観は多様であれど、人が死んだら悲しいのです。病気になったらつらいんです。病気は怖いんです。「困っている人に手を指しのべる」古典的なプロフェッショナルである医師、その権化である山元先生。本当に心から尊敬します。

(秋田大学医学部 宮地さん)

宮地さま

ありがとうございます。

私の不在の間も現地スタッフががんばって、活動は継続されています。コミュニティヘルスワーカーはほんとうにがんばっています。マラリアで亡くなる人がいなくなったのは彼らのおかげです。

紹介した病院に行くための交通費をどうしても払えない患者に対して、プロジェクトから出すような仕組みを6月から始めたのですが、あまり生かされていないようですね。10月に戻りましたら、みんなで再度検討します。

私も教育が鍵だと思っています。学校建設の資金を自分のポケットマネーから少しづつ出していますが、まだまだです。宮地さんの行かれたサンダラには学校がありません。日本の江戸時代の寺子屋みたいなものができるのかと考えています。

みんなで知恵を出し合って、できることをがんばってやっていきましょう。お会いできることを楽しみにしています。

山元香代子

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

- ・2019事業年度（事業年度は1月から12月）の賛助会費（個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上）及びご寄附（金額は問いません）のご協力をよろしくお願いします。
- ・当法人は認定NPO法人であり、ご寄附（賛助会費含む）いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書（賛助会費も寄附金と同様税控除の対象）をお届けします。
- ・ご不明の点は日高（info@ormz.or.jp または hidaka1956@gmail.com）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名：NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ ザンビアノヘンチリヨウヲシエンスルカイ

*令和元年（2019年）もどうぞご支援のほどよろしくお願いします